

## 第 7 5 回 評 議 員 会 議 事 録

1. 日 時 2023 年 6 月 7 日 (水) 9 時 30 分～11 時 30 分
2. 場 所 原子力発電環境整備機構 12 階 大会議室
3. 出席者 池辺和弘、大江俊昭、小口正範、崎田裕子、城山英明、友野宏、長辻象平、西垣誠、東原紘道、古田悦子、山地憲治、四元弘子 各評議員  
評議員会運営規程第 6 条に基づく出席：  
近藤駿介理事長、阪口正敏副理事長、田川和幸専務理事、梅木博之理事、宇田剛理事、植田昌俊理事、松本真由美理事、田所創監事、中村多美子監事、藤洋作相談役、山口彰技術顧問  
経済産業省資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 下堀友数課長  
(下堀課長は、議案 75-1「2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(案)について」から出席)

本日の評議員会における評議員出席者は 12 名であった。このうち、池辺評議員、城山評議員、古田評議員の 3 名は Web 会議システムにより出席した。評議員会を構成する評議員(12 名)の過半数の出席があり、定款第 20 条第 6 項の開催、議決を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、小口評議員及び四元評議員を議事録署名人に指名した。

また、Web 会議システムについて、音声及び映像が即時に他の出席者に伝わり、一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して、審議に入った。

#### 4. 配布資料

- 議案 75-1 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(案)について
- 議案 75-1-1 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(1)文献調査(案)
- 議案 75-1-2 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(2)対話活動(案)
- 議案 75-1-3 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(3)技術開発(案)
- 議案 75-1-4 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(4)組織運営(案)
- 報告 75-1 2022 事業年度 財務諸表(案)
- 報告 75-1 参考資料 1 2022(令和 4)年度財務諸表について
- 報告 75-1 参考資料 2 2022 事業年度決算(収入支出予決算)について
- 報告 75-1 参考資料 3 2022 年度事業報告書(案)について
- 報告 75-2 機構業務に関連する最近の状況について
- 定期監査結果及び意見書の提出について

第 74 回評議員会議事録

## 5. 議 事

### (1) 報告事項 1

議長から、前年度の事業報告書、決算報告書等を含む「2022 事業年度財務諸表(案)」の報告を受けた上で、議案 75-1「2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(案)について」の審議を行いたい旨の提案があり、了承された。

#### ○ 2022 事業年度財務諸表(案)

事務局から報告 75-1「2022 事業年度財務諸表(案)」の説明が行われた。

(主な意見等)

(評議員)

決算の関係で確認したい。参考資料 1(財務諸表)において費用合計が 5,824 百万円、参考資料 2(収入支出予決算)において支出合計が 5,824 百万円とあり、両者は一致している。一方、これらの内訳は若干数値が異なっているが、どのような理由なのか。

(NUMO)

主な理由は、固定資産を取得した際の計上方法が異なることである。

(評議員)

役職員給与費について、財務諸表(損益計算書)では 1,258 百万円であるが、決算書(収入支出予決算)では 1,297 百万円と両者が異なっている。固定資産取得時の計上方法以外にも、差異が生じる理由があるのか。

(NUMO)

財務諸表には退職金支払に対する退職給付引当金取崩しが反映されているため、両者に差異が生じている。

(評議員)

両者の実績値合計は、今年度は偶然一致したが、本来は異なるという理解で良いか。

(NUMO)

ご指摘のとおり。通常は内訳も合計も異なるが、今年度は偶然一致したもの。

### (2) 審議事項

#### ① 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(1)文献調査(案)

対話活動評価委員長及び技術開発評価委員長から議案 75-1-1「2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(1)文献調査(案)」に基づき、対話活動評価委員会及び技術開発評価委員会で取りまとめた評価・提言原案の説明が行われ、審議が行われた結果、原案の内容で承認された。なお、字句等の軽微な修正は議長に一任された。

(主な意見等)

(評議員)

技術開発に関する評価・提言の議論においても、様々な語彙がある中で正確かつ的確な用語を用いなければ、議論した内容が上手く伝わらなかったり、魅力のない文章になってしまったりするという意見があった。この観点から、原案を見ると少し気になるところがある。

原案の中には、「一層の努力が必要」という表現や「一層の取組みが必要」という表現がある。文献調査の際の対話活動に関しては確定していない部分が多いため、一般的な表現や抽象的な表現になってしまう面もあると思うが、NUMOが実施した活動の内容の報告を受けた上で委員会において慎重に評価した結果の報告なので、一般論を超えた具体論についても積極的に提示する方が良いと思う。

同様の観点から、もう1点気になる箇所がある。「住民の方々への情報の浸透(拡散)」という表現があるが、「浸透」や「拡散」という用語は、どちらかと言えば物理現象を示す用語であり、無機的な印象を与える。このようなイメージは、NUMOの対話活動の考え方とは少し違うのではないかと思う。NUMOの対話活動は、地元の方々の不安や疑問点を把握し、その解決方法などを検討した上で双方向の対話を行い、相互理解を目指すというスタンス、いわば、対話の質を重視するスタンスであると思う。このように、「浸透」や「拡散」という表現のイメージとNUMOのスタンスには少し齟齬があるのではないかと思う。

(評議員)

貴重なご指摘だと思う。まず、「一層の努力が必要」や「一層の取組みが必要」という表現について、評価結果を示す際には具体的に記載すべきであるとのことのご指摘があった。ご指摘の趣旨はそのとおりだと思う。一方で、今回の評価を文書化するにあたっては、まず全体を総括するという意味でご指摘のような総論を記載した上で、後段において、個別の評価などを具体的に記載するという形にしたいと考えている。

また、リスクコミュニケーションにおいては、情報を単に伝えれば良いということではなく、キャッチボールをしていくということが大事であるということ、また、NUMOは対話活動においてこの点を重視し実践しているということは十分理解している。その上で、「住民の方々への情報の浸透(拡散)」という表現には、対話の場で話し合われているだけでなく、しっかりと住民の方に情報が届いているかどうかが大変であるという思いが込められていると考え、原案の記載とした。ご指摘の趣旨は、リスクコミュニケーションで重視すべき点と原案の表現には温度感の違いがあるのではないかということだと思うので、ご指摘を踏まえて、表現方法については再考したい。

(評議員)

2頁の(2)提言に、「地方の市町村の首長による」という記載があるが、「地方」という表現は、過疎地であるという印象を与え、誤解を招く可能性があると思う。例えば、「各地」という表現にした方が良いのではないか。

また、4頁の(2)提言に、国とNUMOとの立場の違いの明確化に関する記載があるが、一般の方には、この部分の記載の趣旨が正確に理解されない可能性があると思う。様々な場面において、国とNUMOは一緒になって事業を進めるということを強調している中で、立場の違いの明確化の重要性を示す場合には、もう少し詳細に記載した方が良いのではないか。

(評議員)

ご指摘のとおり、国とNUMOが連携・協働して事業を進めていかなければならないということについては、様々な場面で発信している。一方で、対話の場などでの対話活動においては、国とNUMOは立場や状況の違いを明確にした上で、例えば、NUMOから国の政策や審議会などでの審議状況を説明することは避けるべきであるという意見が多くの評価委員からあった。このような趣旨が明確に伝わるように表現を考えたいと思う。

(評議員)

文献調査段階での技術的評価に関しては、NUMOの側で、どのような評価の考え方でどのように運用するかを考え、一方、国の地層処分技術WGにおいて、評価の考え方のレビューに関する議論が行われている。他方、NUMOの技術開発評価委員会がNUMOの考え方や運用について、技術的な観点も含め、ある種の評価を行っているという状況にある。これらの国の評価とNUMOの技術開発評価委員会の評価との関係をどのように捉えるべきなのかを教えてほしい。対外的にどのように説明したら良いのかという観点で気になっている。

具体的には、火山の発生可能性について、技術開発評価委員会の指摘(今回の評価原案)では、データ量の問題などから難しい判断となるので慎重に行うべきという指摘がなされている。他方、国の地層処分技術WGの議事要旨によると、そもそも新たな火山の発生を予見することは不可能だから記載に適さないという旨の意見や10年後までは一定の予測が可能だが、地域によっては評価が難しい場合があるという旨の意見があり、これらを受け、新規火山の発生の可能性が原子力規制委員会によって考慮事項として示されたことについて、これに対する評価の考え方として示されている方法の案の内容は、最新知見に照らして評価をするという観点からも受け入れることができ、可能な範囲で評価を行うという形で総括されている。

また、検討にかける時間や人材を考えた際に、当然、国でも透明性を確保する観点などから時間をかけて検討しているが、NUMOの評価委員会の方が特に時間をかけて丁

寧に議論し留意点等をより丁寧にコメントしているという説明の仕方で良いのかも教えてほしい。

(評議員)

国の地層処分技術WGにおいて、新たな火山の発生を予見することは難しいという議論がなされたことは承知している。技術開発評価委員会においても、同種の意見があった。一方、NUMOは、評価の考え方に示された方向を指向しているということであったので、技術開発評価委員会としては、予見することの困難さを指摘するとともに、これを十分に認識しながら慎重に評価を行うべきであるという旨の提言をしたいと考えている。このようなことから、原案のような表現になっている。

(評議員)

技術開発評価委員会は、国のWGとは違った観点で、NUMOに対して今後留意すべき事項を明確に示していると整理できると思う。このような整理で、技術開発評価委員会の役割を対外的に説明できると思うが、いかがか。

(評議員)

予見することの困難さを念頭において議論をしっかりとってもらいたいということを目指したという意味ではご指摘のとおりだと思う。

なお、技術開発評価委員会では、NUMOが国のWGに提示した「文献調査段階の評価の考え方(案)」の内容に関する個別の技術的論点についての詳細な議論は行っていない。この役割は技術アドバイザー委員会(TAC)が担っていると考えている。

(評議員)

多くの貴重なご指摘をいただいた。原案の内容は了承した上で、ご指摘を踏まえて表現方法を工夫することにしたいと思う。字句等の軽微な修正については、最終的には一任いただくということによろしいか。

<異議なし>

## ② 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(2)対話活動(案)

対話活動評価委員長から議案 75-1-2「2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(2)対話活動(案)」に基づき、対話活動評価委員会で取りまとめた評価・提言原案の説明が行われ、審議が行われた結果、原案の内容で承認された。なお、字句等の軽微な修正は議長に一任された。

(主な意見等)

(評議員)

評価・提言の内容自体には異論はない。ただし、今後は、別紙(NUMOの自己評価書)

に記載する数値データをもう少し充実した方が良いと思う。具体的に言えば、説明会などを実施した際には、開催回数や参加者数はもとより、実際の参加者の反応や意見が重要であるため、アンケートの結果について、もう少し時系列を長くしたり、地域や性別による差を分析したりするなど、データを充実して提示してもらうことにより評議員及び評価委員の理解が深まり、評価も行いやすいのではないかと思う。

(NUMO)

データについて様々な分析を行っているので、長い期間でのデータを含めて提出することができる。来年度以降の説明において検討したい。

(評議員)

2頁の(2)提言に、「検討を提言する。」という表現があるが、どういうことを意図しているのか教えてほしい。検討することを提言しているのか、あるいは、検討そのものを議論しているということなのか。いずれにしても、「検討を提言する。」という表現は分かりにくいと思う。

また、提言の中にある人材育成については、極めて重要で困難な課題であると思う。技術開発の技術マネジメントにおいても、技術者の力量を上げることに関する提言をしているが、これとも関連してくる極めて難しい問題であると思う。NUMO内でも各部署が連携して対処していく必要があると考えている。

(評議員)

「検討を提言する。」については、1頁の(1)評価の部分に記載している「検討することを提言」と同趣旨。この種の提言は、これまであまり議論されていない内容で、かなり新しい視点での提言であると考えている。このため、NUMOでこの点に関する検討がなされているのかもまだ把握しておらず、今後、しっかりと検討してほしいという趣旨で提言している。

(評議員)

4頁の(おわりに)に、「原子力政策と地層処分事業は一定の距離を取る必要があるともいえる。」「今後も同様に淡々と進めることを提言する。」とある。「淡々と」という表現については大変考慮されたものだと思うが、少し冷たい表現のような気がする。

「淡々と」という表現を使っている背景は理解するが、バックエンドとフロントエンドは一体のものであるという考え方も重視したいと思うので、例えば、「着実に」といった表現にしてはどうかと思う。

(評議員)

ご指摘の表現を含め、(おわりに)の部分の表現方法は、評価委員の中でかなり意見交換を行った。様々な考え方や捉え方があるということは理解したので、ご指摘を踏まえ

て考えたい。

(評議員)

原案の内容は了承し、これを基本に、若干表現を工夫することにしたいと思う。字句等の軽微な修正については、最終的には一任いただくということによろしいか。

<異議なし>

③ 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(3)技術開発(案)

技術開発評価委員長から議案 75-1-3「2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(3)技術開発(案)」に基づき、技術開発評価委員会で取りまとめた評価・提言原案の説明が行われ、審議が行われた結果、原案で承認された。なお、字句等の軽微な修正は議長に一任された。

(主な意見等)

(評議員)

ある種の大局観を持って、どういう課題の構造なのかが分かる形で示されており、大変分かりやすくまとまっていると思う。

今後は、この評価や提言に対してNUMOがどういう反応や対応をするかが重要だと思う。つまり、指摘された事項について全て対応するというのではなく、不確実性がある中においては優先順位をつけて対応することが必要になると思う。NUMOとして考えて、このような順序で具体的にはこのように対応するということを示す、いわば、評価側とNUMO側の間で対話が成立しているという姿を示すことが重要だと思う。

将来的にNUMOの事業運営に対して疑念を持たれた場合、例えば、野放図に対応してきたのではないかという指摘がなされることも考えられるが、このような指摘に対して、評価側と適切な対話を行いながら対応してきたといった反論ができるように対応していくことが重要であると思う。NUMOには、このような観点からも慎重に考えて対応してもらいたいと思う。

(評議員)

年度の途中で具体的な対応や評価を変更するのは難しいと思うが、次年度の評価の際に、NUMOが前年度の評価・提言にどのような対応をしているのかをきちんと判断したいと思う。

(評議員)

原案を了承することとし、字句等の軽微な修正については、最終的には一任いただくということによろしいか。

<異議なし>

④ 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(4)組織運営(案)

事務局から議案 75-1-4「2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言(4)組織運営(案)」に基づき、各評議員からあらかじめ意見の提出を受けて取りまとめた評価・提言原案の説明が行われ、審議が行われた結果、原案で承認された。なお、字句等の軽微な修正は議長に一任された。

(主な意見等)

なし。

(評議員)

原案を了承することとし、字句等の軽微な修正については、最終的には一任いただくということによろしいか。

<異議なし>

(3) 報告事項 2

○ 機構業務に関連する最近の状況について

事務局から報告 75-2「機構業務に関連する最近の状況について」の報告が行われた。

(主な意見等)

なし。

(NUMO)

皆さま、本日は、評価・提言に関する議案をご審議いただき感謝申し上げます。評議員会からいただいた 2022 事業年度業務実施結果に対する評価・提言については、取りまとめていただいたものをホームページで公開するとともに、本年度の事業実施や来年度の事業方針の策定にしっかりと反映してまいりたい。

Web 会議システムにも終始異状なく、以上をもって議事の全ての審議及び報告を終了したので、議長は 11 時 30 分に閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及び結果を記録するため、本議事録を作成し、議長及び議長が指名した議事録署名人がこれに署名捺印する。



原子力発電環境整備機構  
評議員会

議 長

友 野 宏 ⑩

議事録署名人

小 口 正 範 ⑩

議事録署名人

四 元 弘 子 ⑩